

人と花と実りの里

活動の経緯

民間宅地開発事業計画が頓挫し、30年間放置され荒廃した農地山林が地域住民の問題となる中、荒れた農地山林を昔のように自分たちが誇れる里山や農地に蘇らせたいという住民の熱い想いが契機となり、市、事業者、鳥沢地区住民で活用策を検討。環境保全型農業、農地を活用した都市農村交流等を図る目的で、国の構造改革特区によるNPO法人の農地活用が提案され、平成16年12月に構造改革特区「大月エコの里特区」の認定を受けた。

活動の概要

里山約6haと農地約4haの再生、合計約10haの「大月エコの里」全体の環境保全整備活動及び都市農村交流事業の実施。



幼稚園児、学童クラブのさつま芋植付と収穫



ファミリー農園での交流

東京都や神奈川県など
首都圏から家族連れて
来所

都市部住民との交流

活動の成果、主な実績等

- ①設立当初から計画的な間伐と植樹による「千本桜プロジェクト」に取り組み約850本の桜を管理し、大月市桜まつり等地区の景観美化に貢献している。
- ②再生農地での芋類、野菜等の栽培や間伐材を使った椎茸栽培等を行い、無人販売所や地元農産物直売所、市内イベント・マルシェ等で販売している。
- ③農業体験、首都圏の企業と連携した味噌等の加工品作り、市民農園貸出し等の幅広い活動を通じ、都市住民と活発な都市農村交流が図られている。
- ④大月短期大学の地域実習を支援し、若い世代の地域農業や農産物等への理解醸成に尽力している。
- ⑤地元の小学校、幼稚園、保育園等と連携した農業体験等の郊外実習を行い、子どもたちの食育を推進している。
- ⑥化学農薬肥料等の使用を極力控えた環境にやさしい農業を実践し、地域内の環境保全型農業に対する意識の向上に繋がっている。